

都立保谷高等学校

【校長】 平林 正男
【生徒数】 941名
【学級数】 24学級



【実態・目標】

○多くの生徒が知識の習得においてあいまいな覚え方をするため、適切な意思決定・行動選択が必要な場面で迷いが生じ自身自身で決断できないことが多い。

⇒ 性に関する行動においても適切な意思決定・行動選択ができるよう、リアリティのある学習を通して適切な知識の定着を図る。

目標

・「望ましい思春期の過ごし方」と「将来における家族計画の在り方」に関する理解促進

【課題・改善】

○学んだ知識を生かし、自らの健康課題を解決する力を身に付けることへの定着を図るまでには至らなかった。

⇒ 【今後の取組】

○今後、学校全体で教科等横断的に健康教育の充実を図っていく。

【取組】

○保健におけるグループワーク

・興味・関心を高めるため、実例を挙げて説明したり、画像や動画を活用したりして、学習した内容を題材に話し合い活動を実施した。

○産婦人科医を招へいした公開授業の実施

・思春期のからだの変化、性差、妊娠と避妊、性感染症、子宮頸がんワクチンについて取り上げて、これまで学習した知識の定着を図った。

【成果】

○生徒の意識に関する成果

・産婦人科医を招へいした公開授業に対し、「授業で学んできたことをより深められた」という回答が多く、知識の定着を図ることができた。また、相談窓口の存在を複数知ることによって、今後の行動選択の幅が広がった。

○生徒の態度に関する成果

・保健や家庭科の授業、総合的な探究の時間やHR等において、将来や人生に関する学習に意欲的に取り組むようになった。

○その他（教員の授業改善など）

・子宮頸がんワクチンや低用量ピルなど、教員の知識のアップデートにつながった。

【取組（詳細）】

○ 科目保健の授業における活動

保健の授業では、一人1台端末を利用した調査やグループでの話し合いを通して理解を深めた。単にデータの調査をするのではなく、視聴覚教材や手記などの体験談を目にして、リアルなイメージを描きながら課題に取り組めるよう工夫した。



授業の様子

○ 産婦人科医を招へいした公開授業の実施

●授業内容の説明

- ・思春期のからだの変化について
- ・性犯罪にまきこまれないために
- ・妊娠・中絶・避妊について
- ・性感染症について
- ・子宮頸がんワクチンについて

●生徒の様子

・科目保健の授業で学んだ内容を、専門家からの異なるアプローチで学習でき、関心高く、集中して講義を聴いていた。



公開授業の様子

●外部人材を活用した授業について

・学校や家庭という小さなコミュニティだけでなく、保健所や医療機関など地域にも目を向けるきっかけになり、生徒の視野が広がった。

●生徒の感想（事後アンケートより）

- ・触れにくい内容を分かりやすく説明してくれて、とても聞きやすかった。
- ・生まれてきたことは奇跡なので自分自身を大切にしようと思いました。
- ・性に関して正しい知識を身に付けることが出来ました。自分ではまだ知らない事でも、これからは専門家の方の話も聞いて知識を身に付けようと思います。
- ・自分だけでなく、大切な人も守るために正しい知識を知らない友達に教えられたいです。